

## ISO14001 の制定と改定

### ISO14001 制定の背景

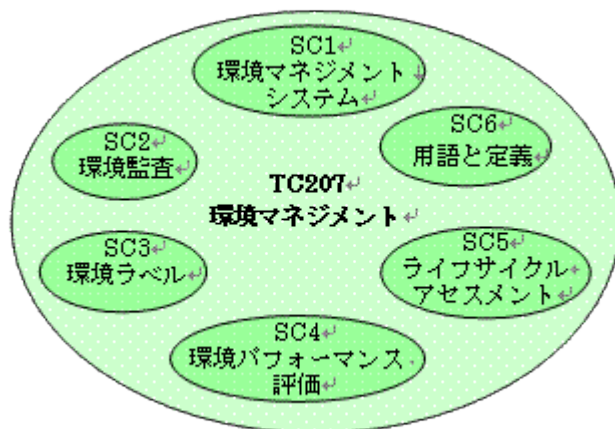
地球環境問題に対する国際的な解決策を議論するために、1992年6月“地球サミット”(国連環境開発会議 UNCED)が開催されました。この地球サミットを産業界として成功させるために、世界のビジネスリーダー50名からなる「持続的発展のための産業界会議」(BCSD)が創設されました。BCSDが“持続的発展”の諸局面について分析を行っていく過程において、環境マネジメントの国際規格化の考え方が出てきました。このため、BCSDはISOに対して環境に関する国際標準化に取り組むよう依頼しました。

これを受け、ISOは環境に関する標準化の課題について検討するため、IEC(国際電気標準会議)と共同でアドホックグループ「環境に関する戦略諮問グループ」(ISO/IEC/SAGE)を1991年9月に設立し検討をしました。この結果、ISO理事会は、アドホックグループからの報告を受け、1993年2月、環境マネジメント専門委員会(TC207)の新設を決定しました。

### ISO14001 の発行

TC207には、6つの分科会(SC)が置かれました。

このうちSC1が環境マネジメントシステムの標準化を担当しました。そして1996年に発行された規格が、ISO14001とISO14004です。



マネジメントシステム規格ということで、ISO9000シリーズとの両立性を考慮した規格作りを行いました。ISO9000シリーズとは異なって、ISO14000は制定されませんでした。また、環境マネジメントの活動は、ISO9001~9003のようなマルチレベル構造は取

らないので、ISO14002 や 14003 も制定されませんでした。そして、製品の品質とは異なって、利害関係者との関係活動と内部利益目標の活動の区分けは不必要であるということ、ISO9001(及び 9002、9003)と ISO9004 の相補的な関係と異なり、ISO14004 は ISO14001 を適用するための指針という位置づけとしました。なお、ISO14001 には附属書 A に利用の手引きが記述されているので、指針は二重になっています。

## 2004 年の改正

---

2004 年に行われた初めての改定でもこの構造は維持されています。2004 年版は、5 年ごとに規格の見直しをするという ISO の規定に従って検討の結果発行されたものですが、始めから大きな改定を行わない、ISO9001 の 2000 年改定との両立性を確認するという合意のもとに行われたものですから、内容的には大きな変更は行われていません。

## 2009 年の継続確認と 2015 年の改正

---

規格発行後 5 年を経過しない時機に規格を改正するか、廃止するか、改正するか、そのまま継続するかについて見直しをしなければならないという ISO のルールに従って、2009 年に ISO14001:2004 の見直しをしましたが、この時は継続するのが妥当と確認されました。

「ISO9001 の成立と改正」のページに書いていますように、各種マネジメントシステムの統合化のための共通化指針が附属書 SL として 2011 年にまとまったことを受けて、附属書 SL のマネジメントシステムの基礎を適用して、理解関係者の期待する結果を生み出すことができる規格へ向けて改正作業を開始すべく改正のための NWIP が提出されました。これが 2011 年 11 月に承認されたことを受けて、TC207 の SC1 で改正作業が開始されました。3 回の WD 作成、2 回の CD 公開を経て、2014 年 7 月から DIS が公開されることになりました。DIS が公開されると、2 ヶ月の翻訳期間において、9 月より 3 ヶ月のコメントと FDIS 並行するかどうかの賛否投票を受け付けました。投票の結果、FDIS に移行することが合意されました。この結果、TC207 の SC1 は寄せられた多数のコメントを評価の上 FDIS を作成し、2015 年 7 月 2 日から 2 ヶ月の間賛否投票に付しました。投票の結果、FDIS は承認されることとなり、9 月 15 日付けで ISO14001:2015 が発行されました。